

# 中学歴史プリント（過去問類似）

## 飛鳥時代

名前

得点

/10

問1 飛鳥文化が栄えた時代の歴史的な出来事について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2019年 滋賀公立入試 類似）

- 西暦607年に小野妹子が遣隋使として派遣され、大陸の優れた制度や文化が持ち込まれた。
- 鑑真が来日して唐招提寺を建立し、仏教の正しい戒律が日本に伝えられた。
- 聖武天皇が国ごとに国分寺を建て、奈良に東大寺の大仏を造立させた。
- 空海や最澄が唐から新しい仏教を伝え、比叡山や高野山に寺院が開かれた。

問2 天智天皇が政治の拠点として定めた場所は、現在の滋賀県にある琵琶湖付近に位置しています。この都の名称として正しいものを選びなさい。（2021年 滋賀公立入試 類似）

- 大津宮
- 飛鳥浄御原宮
- 難波宮
- 藤原京

問3 7世紀前半、聖徳太子（厩戸王）らが中心となって推進した、日本で最初の本格的な仏教文化を何というか。（2018年 大分県公立入試 類似）

- 飛鳥文化
- 天平文化
- 弘仁・貞観文化
- 国風文化

問4 飛鳥時代の政治に関する記述のうち、冠位十二階の制度的特徴を正しく説明しているものはどれですか。（2023年 熊本県公立入試 類似）

- 個人の才能に応じて色別の冠が授けられ、地位が上がれば昇進も可能であった。
- 氏族ごとに定められた地位に基づき、特定の家柄が世襲で官職を独占した。
- 全国の戸籍を作成し、それに基づいて公平に土地と位を割り当てた。
- 仏教を深く信仰することを役人の第一の条件とし、僧侶を役人に登用した。

問5 7世紀初めの飛鳥時代において、推古天皇の摂政である聖徳太子が、豪族の蘇我馬子と協力して行った政治や外交の説明として、最も適切なものはどれですか。（2024年 福島県公立入試 類似）

- 中国の進んだ制度や文化を取り入れるため、小野妹子らを遣隋使として派遣した。
- 律令制度を完成させるため、中臣鎌足とともに大化の改新に着手した。
- 唐の制度にならって平城京を建設し、最澄や空海を遣唐使とともに随行させた。
- 仏教を広めるために鑑真を日本に招き、東大寺に大仏を建立して国を治めようとした。

問6 7世紀前半の聖徳太子（厩戸王）が政治を行っていた時代に栄えた、日本で最初の本格的な仏教文化を何といいますか。（2023年 埼玉県公立入試 類似）

- 飛鳥文化
- 天平文化
- 国風文化
- 弘仁・貞観文化

問7 飛鳥時代の外交と国防に関する記述として、白村江の戦いによる敗戦がその後の日本の政策に与えた影響を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2018年 富山県公立入試 類似）

- 唐や新羅の侵攻に備え、九州に水城や防人を配置するとともに、都を近江の大津宮へ移して国内の守りを固めた。
- 大陸との交流を完全に断つため、遣唐使を廃止して国風文化を振興し、武士の力による独自の防衛体制を整えた。
- 元（モンゴル）の襲来を警戒し、博多湾の沿岸に石造りの防塁を築いて、全国の御家人を組織した。
- 清の軍事力に対抗するため、欧米の技術を導入して近代的な軍隊を組織し、江華島事件をきっかけに海外進出を始めた。

問8 7世紀後半、大和政権が唐や新羅からの侵攻に備えて、主に東国から徴兵した兵士を九州北部の警備にあてた制度を何と呼びますか。（2025年 奈良公立入試 類似）

- 防人
- 健児
- 衛士
- 足軽

問9 万葉集の中に「大王（天皇）は神でいらっしゃるので、水鳥の集まる湿地を立派な都になさった」という趣旨の歌で称えられた天皇について、その統治の背景として最も適切な説明はどれか。（2022年 大分県公立入試 類似）

- 壬申の乱に勝利したことで絶大な権力を握り、天皇を神格化して官僚制の整備や律令の編纂を進めた。
- 大化の改新を断行し、蘇我氏を打倒することで、地方の豪族が支配していた土地と民を直接統治する仕組みを作った。
- 仏教による国づくりを目指し、全国に国分寺や国分尼寺を建立して、東大寺に大仏を造立した。
- 冠位十二階を制定することで、家柄にとらわれず才能のある人物を役人として登用する制度を整えた。

問10 701年に制定され、唐の制度を模範として天皇を中心とした中央集権的な政治体制の基礎を確立した法典は何ですか。（2020年 愛知県公立入試 類似）

- 大宝律令
- 養老律令
- 十七条の憲法
- 御成敗式目

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 西暦607年に小野妹子が遣隋使として派遣され、大陸の優れた制度や文化が持ち込まれた。	飛鳥文化の背景には、遣隋使の派遣によって中国（隋）の進んだ文化や仏教が直接導入されたことがあります。鑑真や聖武天皇の事績は8世紀の奈良時代（天平文化）、空海や最澄の活動は9世紀初めの平安時代（弘仁・貞観文化）の出来事であり、飛鳥文化とは時期が異なります。
問2	<b>答え 1</b> 大津宮	中大兄皇子は、唐や新羅の侵攻に備えた防衛体制を整える中で、都をそれまでの飛鳥から滋賀県の琵琶湖近くにある大津宮（近江大津宮）へと移しました。この地で天智天皇として即位し、日本初の全国的な戸籍の編纂や、近江令と呼ばれる法令の制定など、国家体制の整備を進めました。
問3	<b>答え 1</b> 飛鳥文化	百済などの渡来人を通じて伝えられた仏教を基盤とし、法隆寺に代表される寺院建築や仏像制作が盛んになった時期の文化を指す。これは日本における仏教文化の原点であり、大陸や朝鮮半島の技術が色濃く反映されている。
問4	<b>答え 1</b> 個人の才能に応じて色別の冠が授けられ、地位が上がれば昇進も可能であった。	冠位十二階では、徳・仁・礼・信・義・智の6つをそれぞれ大小に分け、12段階の位が設定されました。それぞれの位は冠の色によって区別され、能力や功績次第でより高い位へと昇進することができました。これは、家系によって地位が固定されていたそれまでの社会構造を変革しようとする試みでした。同時に定められた憲法十七条が役人の心得を説いたのに対し、こちらは役人の評価基準を定めたものと言えます。
問5	<b>答え 1</b> 中国の進んだ制度や文化を取り入れるため、小野妹子らを遣隋使として派遣した。	聖徳太子は推古天皇の摂政として、蘇我馬子と協力して天皇中心の政治を目指しました。その一環として、当時中国を統一していた隋の高度な文化や制度を学ぶため、607年に小野妹子を遣隋使として派遣しました。中臣鎌足は大化の改新、遣唐使は隋の後の唐に送られた使節、鑑真や大仏建立は奈良時代の出来事であり、時期や人物が異なります。
問6	<b>答え 1</b> 飛鳥文化	この時期の文化は、法隆寺の建築や広隆寺の弥勒菩薩像などに代表される日本初の仏教文化です。中国の南北朝時代の文化の影響を強く受けているのが特徴で、渡来人によって伝えられた技術が寺院の建設や仏像の制作に活かされました。
問7	<b>答え 1</b> 唐や新羅の侵攻に備え、九州に水城や防人を配置するとともに、都を近江の大津宮へ移して国内の守りを固めた。	白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗した中大兄皇子（天智天皇）は、日本への報復的な侵攻を強く警戒しました。そのため、九州の太宰府付近に水城（みずき）や大野城などの城を築き、東国から徴集した防人（さきもり）を配置して国境の警備を強化しました。また、都を飛鳥から内陸の大津宮（現在の滋賀県）へ移したのも、防衛上の理由が背景にあります。
問8	<b>答え 1</b> 防人	白村江の戦いで敗北を受けて整備された防衛体制の一環として、九州の防備を担ったのが「防人」です。主に東国の農民が徴兵され、3年間の任期で九州へと送られました。この防人たちの故郷を思う心情などを詠んだ歌は「防人歌」として万葉集にも数多く収められています。
問9	<b>答え 1</b> 壬申の乱に勝利したことで絶大な権力を握り、天皇を神格化して官僚制の整備や律令の編纂を進めた。	天武天皇は壬申の乱での勝利を通じて、それまでの有力豪族による合議制的な政治から、天皇が絶対的な権力を持つ政治へと転換させました。万葉集の歌は、その強大な権力を「神」と表現して称賛したものです。彼はこの権力に基づき、飛鳥浄御原令の編纂や、のちの平城京へとつながる官僚機構の整備に着手しました。
問10	<b>答え 1</b> 大宝律令	唐の「律（刑罰規定）」と「令（行政規定）」を参考にして、日本で初めて本格的に整備された律令です。この法典の完成により、土地と人民を国家が直接支配する「公地公民」の原則に基づいた律令国家の仕組みが形作られました。